

## チェーンソー・エンジンカッターなどの切断機具は安全な使用を！ ～ 作業の軽視が事故を招きます ～

建設現場工具は免許が不要なものが多く、一般的な作業で用いられるため、軽視しがちですが、使い方を誤ると指や腕を切断するような重傷を負ったり、命を落とすこともある危険な道具です。**計画を遵守して万全の安全対策で作業**を行いましょう。

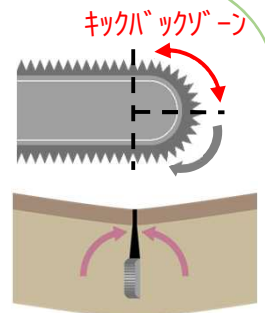
### 安全教育

- コンクリートブレイカー、エンジンカッター、刈払い機、インパクトドライバーなどの振動を伴う工具を継続的に使用すると振動障害となる恐れがあるため、事業者はチェーンソー以外の振動工具取扱者に対して特別教育に準じた教育を実施するように求められています。
- チェーンソー作業従事者は、伐木等の作業に関する特別教育を受講するように求められています。
- よく行われる作業では、危険性を認識しない、または軽視して作業が行われてしまうことがあります。作業手順を定め、危険性や正しい使用方法について注意喚起を行いましょう。
- 作業を軽視して保護具を着用しないケースがみられます。保護具は作業者自身の安全と健康を守るものです。作業計画・手順に保護具の着用を明記し、朝礼・KY活動でも注意喚起を行いましょう。

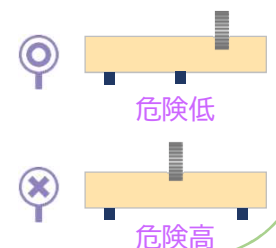


### チェーンソー・エンジンカッター共通

- 前ハンドルは左手、後ろハンドルは右手で確実に保持し、両足を開き足元の安定を確保して作業しましょう。**雨上がりなど足元が滑りやすい場所、バランスを保つのが難しい場所で使用しない**てください。
- **肩より高い位置で作業は行わない**ようにしましょう。高い箇所を切断する時は、足場や踏み台を使用しましょう。ハシゴは不安定なので使用してはいけません。
- キックバックはキックバックゾーン（上部1/4）に物が触れた時、切断できない物に触れた時、刃の回転が急に妨げられた時などに発生します。
- 切断が進んでいくと、対象物が加重によって切断部の中心が下がってきます。そのまま切断を続けると刃が対象物で挟み込まれキックバックが起きてしまいます。刃が挟み込まれにくい台座と切断位置で作業しましょう。
- 異常音や異常振動を感じたら、まずエンジンを停止させましょう。
- **刃が挟まれた場合は、必ずエンジンを切ってから引き抜く**ようにしましょう。エンジンをかけたまま引き抜くと、外れた途端に刃が回転し始めて危険です。
- 使用を中断したり、移動する時は必ずエンジンを停止させましょう。



無理な荷重が作用する



### チェーンソー

- チェーンソーの片手持ち作業、無理な姿勢（腕を伸ばす・肩より高い位置）での作業は厳禁です。
- キックバックをしないように、枝払いにはガイドバーの根元部分を使って切断しましょう。



### エンジンカッター

- 使用前に、ブレードにひびや割れがないことや、ネジの緩みや損傷がないことなどを点検し、対象物の材質に適合したブレードであることや、保護カバーが適正に付けられていることなどを確認しましょう。
- 余計な力を加えたり、ブレードを押さないようにしましょう。横からの圧力はブレードが損傷し事故の危険性があります。
- パイプなど、切断中に動いたり転がる可能性がある材料は、適切に支持してあることを確認してから作業を始めましょう。



# 熱中症にご注意

～ 声をかけあって、工事中の熱中症被害をなくしましょう ～

熱中症になるのは、高温多湿な環境だけではなく、作業内容、作業服、作業員の個人の体質なども深く関与しています。できるだけ1人で作業させず、周囲の人が変化に気付く環境づくりを行いましょう。

- 早い段階で手当すれば、症状が軽くなりますが、手当が遅れると重傷化の恐れがあります。(A,Bの熱中症の症状参照)
- 汗を多量にかいたときは汗とともに塩分(ナトリウム)が身体から失われるため、水分とともに塩分(ナトリウム)を定期的に摂取しましょう。
- 長期休暇明けは、身体が鈍って熱中症を引き起こす可能性があります。作業時間や作業内容を配慮しましょう。

## A.自分でわかる熱中症の症状

- ・めまい・だるさ
- ・頭が痛い
- ・力が入らない
- ・気持ちが悪い。吐く
- ・こむら返り(ふくらはぎの筋肉がつる)
- ・汗が異常に出る、または全く汗をかかない



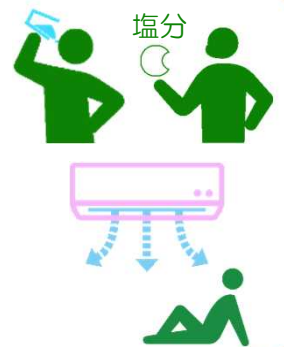
## B.他の人から見て分かる熱中症の症状

- ・呼びかけに反応しない、にぶい
- ・真っ直ぐ歩けていない
- ・汗が異常に出ている、または全く汗をかいていない
- ・水分補給ができていない
- ・顔面蒼白



## 熱中症の症状がある時は

- 速やかに水分や塩分(ナトリウム)をとり、暑さをさけて休息しましょう。
- 短時間で状態が急激に悪化する場合があるので、熱中症の疑いがある時には必ず誰か側について様子を観察しましょう。
- 熱中症の症状があっても休息していたのにもかかわらず、少し回復したからといって作業を再開しないようにしましょう。
- 自分で水分を摂取することが難しい場合に、無理に飲ませると窒息する危険があります。自分で水分がとれない場合は、すぐに病院へ搬送しましょう。



## 長期間の閉所の際にはしっかりと現場の保守をしましょう

- 停工時には第三者の方が、そこが工事現場であることに気付かず、立ち入ってしまう、資材のくずれや土砂崩れに巻き込まれてしまう危険があります。危険標識や赤/黄色灯、チューブライトをいつも以上に設置し、工事現場であることを分かりやすい状態にしましょう。
- 特に入りがり込まないように、防護柵などですき間をなくし、子供の目の高さに看板を設置しましょう。
- 長期間の閉所で人がいなくなると、資材や機器の盗難被害に遭いやすくなります。防犯カメラ・ドライブレコーダー、警報装置、警備員の配置を検討しましょう。
- 大雨や強風によって、保安用具、看板や資材などが飛散しないよう固定されているか、足場が倒壊の危険がないかなど、いつも以上に細かく点検し、対策を行いましょう。



## 【速報】架空線の事故が多発しています

- バックホウのアームをあげたまま移動し、架空線を切断する等の事案が発生しています。
- 工事の際は、主たる施工場所だけでなく、全ての施工箇所において架空線等の位置や高さを確認して確実に安全対策を講じ、関係者に周知徹底して事故を防止しましょう。
- 架空線の安全対策については、ニュースレターあんぜん321号(令和3年5月号)をご覧ください。  
[https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/jigyousya/jikoboushi/newsletter\\_anzen/qgl8vl0000004smr-att/a1620866582753.pdf](https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/jigyousya/jikoboushi/newsletter_anzen/qgl8vl0000004smr-att/a1620866582753.pdf)